

中部電力における生成AI活用

～生成AIによる電力会社業務大変革の始まり！～

01 技術開発の背景・目的

- 昨今、生成AI技術の急速な発展・普及により、これまでの仕事のやり方が一変しています。
- 将来的な人口減少、働き手不足を背景に、**急速な業務のDX化**が求められています。
- 中部電力では、**社内DX人財主導**のもと**生成AIを早期に導入**、様々な活用方法を検討しています。

02 当社グループ専用生成AIを開発

- 社外生成AIサービスの利用は情報漏洩のリスクがあることから、当社グループ専用の環境で**安全に利用可能**な生成AIである**中電生成AI**を独自開発
- チャット形式でAIと人間がやり取りでき、長い**文章の要約**や**文書の素案作成**などが可能

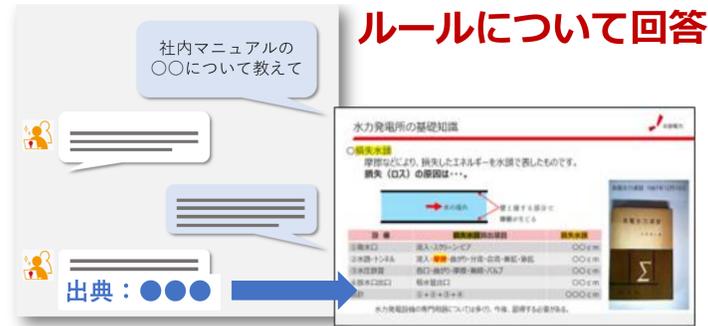


中電生成AIチャット利用画面

03 活用例①社内データ検索、アクセス性向上

- 社内データを集約し、AIが参照して回答することで、各事業・部門における「**人財育成・技術継承**」「**重大災害・トラブル再発防止**」「**業務品質向上**」等へ活用

当社データに基づき当社設備やルールについて回答



ポイント

- 社内のマニュアル・ルールを約1万ファイル収集。チャットでのやり取りの文脈に沿ってデータを探り当ててくれる
- ハルシネーション（嘘）の対策として、出典元データを表示

04 活用例②かんたん議事録生成

- **会議音声を記録**しておけば、**数クリック操作**で**議事録**が作成出来るアプリを開発

会議音声から簡単操作で議事録作成

ポイント

- 会議では**議事録係は不要**、会議を録画or録音しておくだけ
- 最新のAIで**高品質な**文字起こしや議事録が作成可能
- 約**5分***放っておけば**議事録完成**！様式も指定可能

音声ファイルアップロード



※1時間の会議音声の場合

05 担当者より

- 生成AIの導入・活用によりこれまでの業務のやり方が次々と変わっていきます。今回紹介した取組みに限らず、様々な研究や開発を進めて中部電力のDXを押し進めていきます。

中部電力(株)

技術開発本部 先端技術応用研究所

本店 DX推進室



情報技術グループ 追良瀬 主任



DX推進グループ 近藤 副長